

第42回日本毒性病理学会総会及び学術集会

The 42nd Annual Meeting of the Japanese Society of Toxicologic Pathology

ルナパス毒性病理研究所共催ランチョンセミナー

日時：2026年1月22日(木) 12:25-13:15

会場：10階 中会議室1003

座 長：中江 大（帝京平成大学）

演 題 1 ICH S1B (R1)を念頭においた反復投与試験でのPeer Reviewの必要性



演 者：安齋 享征（昭和医科大学 医学部 法医学）

2年間発がん性試験を省略するためのICH S1B(R1)スキームでは、いかに有効な情報の重み付け（WoE）ができるかが重要である。特に発がん性評価に大きく関わる病理検査については用意周到な準備が求められている。従って病理検査結果の重み付けを行う上でPeer Reviewは有効な方法の一つである。勿論、現在Peer Reviewは一般化しているが、事業者によりその対応は異なる。今回の発表では特にICH S 1B (R1)を念頭においたPeer Reviewの必要性についてICH S1B(R1) Expert Working Group (EWG)の動きなどを中心に考察します。

演 題 2 ラットを用いたがん原性試験 – 系統の選択 –



演 者：山川 誠己
（株式会社ルナパス毒性病理研究所、株式会社トランスジェニック）

本邦において発がん性試験に供されるラットの系統は1990年代までは主にFisher 344ラットが選択されており、2000年以降はFisher 344ラットの使用が減少するとともにSD系ラットへ徐々に移行し、現在ではSD系ラットが選択されることがほとんどである。このがん原性試験で使用するラットの系統の変遷について、欧米および国内のがん原性試験で多用されてきた系統の病理学的背景データに注目し、今日の主にSD系ラットが選択される状況に至った経緯を解説する。

参加特典 抽選券（セミナー後にルナパス展示ブースにて抽選を行います**ハズレなし**）

特 賞



ママレード世界大会
連続金賞受賞

英国の湖水地方で開催されるママレード世界大会において、2017年の初出品から8年連続金賞受賞、そして2020年と2022年には、日本人唯一となる2度の最高賞、ダブルゴールドを受賞した貴重なママレードセット

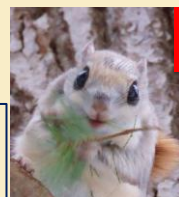
1 等



ルナパス謹呈
アルミワイヤレス充電器（充電ランプ付）

ルナパス学習帳
新シリーズ
エゾモモンガ編

2 等



事前申込みフォーム：<https://forms.gle/D2A5TCkaMWYWgKLS7>

事前申込みいただいたお客様には、1月22日午前中にルナパスブースにてチケットをお渡しいたします（引換証をご持参のうえブースまでお越しください）



LunaPath

ルナパス毒性病理研究所

株式会社ルナパス毒性病理研究所
静岡県浜松市中央区鍛冶町140 浜松Cビル4階
EMAIL registration.service@lunapath-jp.com